

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 東淀川区

学 校 名 大道南小学校

学校長名 青木 孝史

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大道南小学校では、第6学年 67名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度の全国学力・学習状況調査における本校児童の正答率は、国語科59%、算数科49%、理科47%であった。全国平均正答率と比較すると国語科－7.8ポイント、算数科－9ポイント、理科－10.1ポイントとなり3教科とも下回る結果となった。また、今年度の特徴として、無解答率の高さが挙げられる。本校児童の3教科における平均無解答率は、国語科5.2%、算数科7.1%、理科4%となり、3教科とも全国平均無解答率を上回った。特に自分の考えを文章で表現する問題に対し、無解答となる児童の割合が多くなる傾向が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

国語科においては、大阪市の平均正答率と比較して6ポイント下回った。しかし、昨年度と比較すると平均正答率との差異は縮まっている。特に「我が国の言語文化に関する事項」においては大阪市平均を上回っている。国語科の研究に取り組み、授業改善を行ってきたことや、漢字検定や新聞を活用した取り組みにおける成果が表れている。

課題としては、「書くこと」があげられる。資料から大切な言葉を抜き出したり、また、それらを関連付けて文章で表現したりすることが苦手な児童が多いことが明らかとなった。

〔算数〕

算数科においては、大阪市平均を9ポイント下回った。しかし、本校の長年の課題である「図形」の領域において昨年度より改善が見られ、放課後学習や学びサポーターを活用し一人一人に寄り添う指導を実践してきた成果が表れている。その一方で「データの活用」においては、表やグラフなどから必要な情報を見つけたり、見つけた情報を整理し活用したりすることに課題が見られた。

〔理科〕

理科においては、大阪市平均を8ポイント下回った。しかし、令和4年度の結果と比較すると大阪市平均との差異は3ポイント縮まった。これは、理科専科教員を配置することで、しっかりと教材研究された授業を展開し、児童一人ひとりの不思議や発見に寄り添い、向き合う学習を実践してきた成果が着実に表れているといえる。

課題としては、「エネルギーを柱とする領域」があげられ、特に国語科や算数科と同じように記述式の問題に対し苦手意識を持つ児童が多いことが明らかとなった。

質問調査より

本校児童は学力に課題があり、大阪市平均を下回る結果が続いている。学力重点支援校に指定され、学力向上支援事業やブロック化による学校支援事業を活用し、児童の学力向上に努めている。取り組みとして、学力向上支援サポーターを配置したり、学びコラボレーターによる放課後学習を実施したりすることで基礎基本の学力の定着を図っている。また、国語科を研究教科とし授業改善に取り組んできた。その成果として、今年度の児童質問紙において「国語の勉強は好きですか」という問いに対し、最も肯定的な回答をした児童は33.3%と全国平均より12ポイント程度高く、また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」という問いにおいても、全国平均を17ポイント上回った。児童一人ひとりにあった個別最適な学びを今後も実践していく。

課題として、学校の授業以外の学習時間の少なさが挙げられる。「学校の授業以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という問いに対し「全くしない」と回答した児童は実に22.7%であった。また、休日の勉強時間においては「全くしない」と回答した児童は45.5%と約半数に上った。家庭学習をいかに定着させていくかが本校の学力向上において大きな課題である。

今後の取組(アクションプラン)

- ・全国学力・学習状況調査を分析し、児童に育むべき学力をしっかりと把握した授業づくりに励み教員の授業力の向上を図る。
- ・学力向上支援チーム事業のスクールアドバイザーと連携し、国語科の研究に取り組むことで、読む・書く・聞く・話すといった基礎基本の学力を養い、子どもたちの主体的な交流活動へ向かうための下地を作っていく。
- ・漢字検定の取り組みや放課後学習などを継続して行い、児童の基礎的基本的な学力の向上を目指す。
- ・全教員が共通理解のもと学習規律の徹底を図ることで、児童が安心・集中して学習に取り組める環境を確立する。
- ・家庭学習がんだり週間での取り組みを分析し、保護者とともに家庭学習に取り組む環境づくりを実現していく。